

2015年9月11日

米海軍厚木航空施設司令官

ジョン F. ブッシー大佐様

厚木基地爆音防止期成同盟

委員長 大波 修二

第四次厚木爆音訴訟原告団

団長代行 金子豊貴男

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

共同代表 高久 保

神奈川平和運動センター

代表 福田 護

MV22 オスプレイの飛来・訓練への抗議文

8月20日～9月2日まで2週間にわたりオスプレイが厚木基地に滞在した。まずこのこと自体が、基地周辺住民の感情を理解しない愚かな行動である。日本の防衛当局と米軍が懸命にオスプレイの安全性をアピールしているが、国民は誰もその主張に納得していない。ここ神奈川県民、そして厚木基地周辺の住民も然りである。昨年の飛来時に自治体が不安と懸念を表明したが、まだそれは払拭されていない。自衛隊の統合幕僚長が昨年12月に、貴国の国防副長官に「オスプレイの不安を煽るのは一部の活動家だけだ。」伝えたようだが、真っ赤な嘘である。

どんなに米軍が強弁しても、オスプレイの安全性は説得力を持たない。なぜなら、事故が引き続き発生しているからである。今年の5月にも、ハワイでの墜落事故で2名が死亡したばかりだ。この原因究明はどうなったのか。未だに公式な発表はないが、それでも、オスプレイが訓練飛行をしているのはどういうわけか。アメリカでは原因不明の事故を起こした車にも平気で乗るのか？原因がわからないが安全だという説明にアメリカ人は納得するのか。

飛行自体が問題である上に、今回の滞在期間、オスプレイは何度も東富士演習場に赴き訓練を行った。そして、26、27日には東富士から帰ってきた際、基地周辺で旋回訓練を行っている。とくに27日には、タッチアンドゴーを繰り返して、2機で6、7回の旋回訓練を行った。うち、全て垂直離着陸モードで飛んだ事実も確認している。周辺は、住宅密集地である。学校もあり病院もある。このようなところを何度も飛行するのは2012年9月に日米合同委員会で取り交わした合意に違反するのではないのか。また、垂直離着陸モードは施設区域内に限るとした合意事項についても違反ではないのか。

6月の記者会見で海兵隊の報道部所属の中尉は「合意は拘束力を持たない、任務の安全性を優先させる。」という発言をしたが、住民の安全性を優先させるために飛行合意を行ったことを忘れてはならない。

7月30日に、第四次厚木爆音訴訟の控訴審判決があったことを貴職も承知していると思う。その判決では、爆音被害の主たる原因は米軍であると明言している。その爆音は住民の健康被害を引き起こしかねないと言っているのである。米国ではこのような判決があった場合、それを無視するのか？そうではあるまい。米国本国では住民に被害を与えないように住宅地での飛行は制限されているはずだ。では、なぜ、日本では、それを止めないのか。同じ人間であるのに、米国民と日本国民では命の重さが違うのか。アメリカ合衆国ではそのような人権感覚しか教えていないのか。

オスプレイの飛行は、そのような基地被害をさらに上塗りするものである。貴職は周辺住民との友好親善を常に言葉にするが、オスプレイが繰り返し飛来する事実からは、それが口先だけのものであると受け取るしかない。貴職は、米軍全体のオペレーションに異議を唱える立場ではないと言うかもしれないが、貴職の立場であるからこそ言えることである。日本国民の意識を考えると、オスプレイの配備・訓練は、日米両国にとってプラスにならないということ言うべきである。それは厚木基地だけではない。横田も岩国も、そして沖縄普天間も同様である。米海軍厚木航空施設司令官ならばこのことの妥当性を十分認識できるはずである。

さらに問題がある。現在の空母連絡機 C2 の後継機としてあろうことか MV22 オスプレイを導入しようとしていることだ。飛行時間を重ねても事故率は軽減せず、未だに A クラスの事故を起こし続けている機体の導入を貴職は容認するのか？周辺住民のみではない。配下の兵士の安全管理に努めるのが貴職の役割である。空母連絡機のオスプレイ起用について、住民と兵士の安全を守る立場として中止することを米海軍に進言すべきである。

MV22 オスプレイの厚木基地への飛来を受け入れないこと。

沖縄、岩国、横田での飛行をすぐに止めさせるよう在日米軍司令部に進言すること。

空母連絡機 C2 の後継機としてのオスプレイ配備を中止させること。

以上、抗議と共に申し入れる。